

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2010-540071

(P2010-540071A)

(43) 公表日 平成22年12月24日(2010.12.24)

(51) Int.Cl.

A 6 1 B 8/00 (2006.01)

F 1

A 6 1 B 8/00

テーマコード(参考)

4 C 6 O 1

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 22 頁)

(21) 出願番号 特願2010-526891 (P2010-526891)
 (86) (22) 出願日 平成20年9月8日 (2008.9.8)
 (85) 翻訳文提出日 平成22年3月25日 (2010.3.25)
 (86) 國際出願番号 PCT/US2008/010468
 (87) 國際公開番号 WO2009/042027
 (87) 國際公開日 平成21年4月2日 (2009.4.2)
 (31) 優先権主張番号 11/904,454
 (32) 優先日 平成19年9月26日 (2007.9.26)
 (33) 優先権主張國 米国(US)

(71) 出願人 593063105
 シーメンス メディカル ソリューションズ ユーエスエー インコーポレイテッド
 Siemens Medical Solutions USA, Inc.
 アメリカ合衆国 ペンシルヴァニア マルヴァーン ヴァレー ストリーム パークウェイ 51
 51 Valley Stream Parkway, Malvern, PA 19355-1406, U. S. A.
 (74) 代理人 100075166
 弁理士 山口 勝

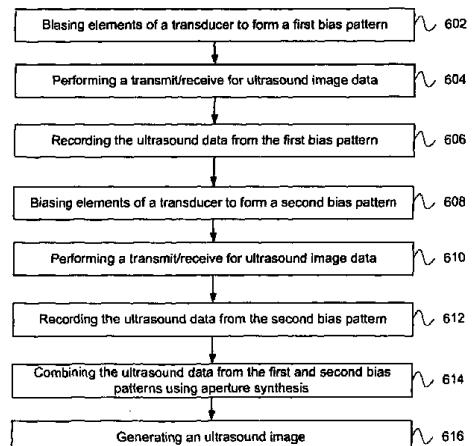
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】容量性マイクロマシン加工超音波トランスデューサを使用した開口合成方法

(57) 【要約】

超音波イメージングシステム(100)は、容量性膜または電気歪超音波トランスデューサ(102)を使用して、バイアス線素子選択と様々な開口合成(614)技術により等方性ボリュームイメージングを実現する。二次元ビーム形成が、一次元に沿って集束させるビームフォーマ(104)を使用し、次に2回目の「オフライン」または「遡及的」ビーム形成を他の方向に実行することによって実行される。

FIG. 6



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

バイアス電圧によって活性化される素子(304)を含むトランスデューサ(102)と、

前記トランスデューサ(102)に結合され、前記素子(304)の第1のバイアスパターン(602)を確立するバイアス信号を発生し且つ前記素子(304)の第2のバイアスパターン(608)を確立するバイアス信号を発生するバイアス発生器(206)と、

前記トランスデューサ(102)に結合されたビームフォーマ(104)とを備え、

前記トランスデューサ(102)は、前記ビームフォーマ(104)に応答して、前記第1のバイアスパターン(602)に基づく超音波データを送受信し、前記第2のバイアスパターン(608)に基づく超音波データを送受信し、

前記第1のバイアスパターン(602)からの前記超音波データと前記第2のバイアスパターン(608)からの前記超音波データとの組み合わせに基づいて画像が作成されるボリューム超音波イメージングシステム(100)。

【請求項 2】

前記ビームフォーマ(104)によるビーム形成はアジマス方向に行われ、前記第1のバイアスパターン(602)および第2のバイアスパターン(608)はエレベーション方向に変化する請求項1に記載のシステム(100)。

【請求項 3】

前記組み合わせは開口合成(614)を含む請求項1に記載のシステム(100)。

【請求項 4】

前記開口合成(614)はハダマード符号化を含む請求項3に記載のシステム(100)。

【請求項 5】

前記トランスデューサ(102)は、前記バイアス電圧によって活性化される素子(304)を含む

音波トランスデューサ(cMUT)または電気歪変換材料の少なくとも一方を含む請求項1に記載のシステム(100)。

【請求項 6】

前記第1のパターン(602)および第2のパターン(608)は、アボダイズされるか、前記バイアスパターン(602, 608)間のスキップサイズ以上の有効幅を有するTx/Rxである請求項1に記載のシステム(100)。

【請求項 7】

変換用バイアスに応答する超音波トランスデューサ(102)による超音波イメージング方法であって、

前記超音波トランスデューサ(102)から、前記変換用バイアスに応答して、第1のバイアスパターン(602)および第2のバイアスパターン(608)で送信する送信ステップと、

前記超音波トランスデューサ(102)により、前記送信ステップに応じて、前記第1のバイアスパターン(602)および前記第2のバイアスパターン(608)から受信する受信ステップ(604)と、

前記第1のバイアスパターン(602)の送受信から得られた信号を、前記第2のバイアスパターン(608)の送受信から得られた信号と組み合わせるステップ(614)とを含む超音波イメージング方法。

【請求項 8】

変換用バイアスに応答する前記超音波トランスデューサ(102)は複数の素子(304)を含み、更に前記第1のバイアスパターン(602)はバイアスオンされた素子(304)の第1のパターンに対応する請求項7に記載の方法。

【請求項 9】

10

20

30

40

50

前記第2のバイアスパターン(608)は、バイアスオンされた素子(304)の第2のパターンに対応する請求項8に記載の方法。

【請求項10】

前記第1のバイアスパターン(602)でバイアスをかけられる前記素子(304)と、前記第2のバイアスパターン(608)でバイアスをかけられる前記素子(304)とは、エレベーション方向で変更される請求項9に記載の方法。

【請求項11】

前記第1のバイアスパターン(602)は、前記第2のバイアスパターン(608)で活性化されない活性化された前記アジマス方向の素子(304)を含む請求項9に記載の方法。

10

【請求項12】

変換用バイアスに応答する前記超音波トランスデューサ(102)は、容量性膜超音波トランスデューサ(cMUT)または電気歪材料の少なくとも一方を含む請求項7に記載の方法。

【請求項13】

前記受信ステップは、前記超音波トランスデューサ(102)によって第3のバイアスパターンで受信するステップを含む請求項7に記載の方法。

【請求項14】

前記信号を組み合わせるステップは開口合成(614)を含む請求項7に記載の方法。

【請求項15】

前記開口合成(614)は送信専用(TX)、受信専用(RX)、または送受信(TX-RX)を含む請求項14に記載の方法。

20

【請求項16】

前記バイアスパターン(602, 608)は前記バイアスパターン間のスキップサイズ以上の有効幅を有する請求項15に記載の方法。

【請求項17】

前記開口合成(614)は遅延加算ビーム形成、位相シフティング、整合または反転横方向フィルタリングのうちの少なくとも1つを含む請求項14に記載の方法。

【請求項18】

送信ステップは、

30

前記超音波トランスデューサ上の前記第1のバイアスパターン(602)を活性化するステップ(102)と、

前記第1のバイアスパターン(602)の適用から信号に第1の時間遅延パターンを適用するステップとを含み、

受信ステップは、

前記超音波トランスデューサ(102)に前記第2のバイアスパターン(608)を適用するステップと、

前記第2のバイアスパターン(608)の適用から、前記超音波トランスデューサ(102)からの信号に第2の時間遅延パターンを適用するステップとを含む請求項7に記載の方法。

40

【請求項19】

ボリューム内の複数の走査線に沿って前記送信ステップおよび受信ステップを繰り返すステップと、

前記ボリューム(616)の表示を生成するステップとを含む請求項7に記載の方法。

【請求項20】

バイアス印加に応答する電気歪材料を使用する超音波イメージング方法であって、

前記材料上の素子(304)の第1のバイアスパターン(602)を活性化する活性化ステップと、

前記第1のバイアスパターンで第1の超音波画像データを送受信するステップ(602)

50

) と、

前記材料上の素子(304)の第2のバイアスパターン(608)を活性化する活性化ステップと、

前記第2のバイアスパターン(608)で第2の超音波画像データを送受信するステップと、

前記第1の超音波画像データと前記第2の超音波画像データとを組み合わせるステップ(614)と、

前記組み合わせの関数として画像を形成するステップ(616)と
を含む超音波イメージング方法。

【請求項21】

前記第1のバイアスパターン(602)と前記第2のバイアスパターン(608)とは
エレベーション方向にある請求項20に記載の方法。

【請求項22】

前記電気歪材料は、容量性膜またはマイクロファブリケーション加工超音波トランスデューサ(102)(cMUT)を含む請求項20に記載の方法。

【請求項23】

前記活性化ステップは、第1のパターンの素子(304)にバイアスをかけるステップ
を含む請求項20に記載の方法。

【請求項24】

バイアス電圧によって活性化される素子(304)を含むトランスデューサ(102)
と、

前記トランスデューサ(102)に結合され複数の送受信機能を実行するビームフォーマ(104)と、

前記トランスデューサ(102)に結合され前記送受信機能に開口合成(614)を実行する合成器とを備え、

第1の送受信機能は、第1のバイアスパターン(602)に従ってバイアスをかけられた素子(304)で実行され、第2の送受信機能は、第2のバイアスパターン(608)に従ってバイアスをかけられた素子(304)で実行されるボリューム超音波イメージングシステム(100)。

【請求項25】

前記合成器は、前記送受信機能の前記開口合成(614)に基づいて超音波画像を作成する請求項24に記載のシステム(100)。

【発明の詳細な説明】

【背景技術】

【0001】

超音波診断業界が、二次元(2D)イメージング用の一次元(1D)超音波アレイからボリュームイメージング用の二次元超音波アレイに移行するときに、倍率の問題が生じることがある。例えば、従来の一次元アレイが $N = 200$ 個の素子を有する場合、対応する二次元アレイは、 $N \times N = 40,000$ 個の素子を有することになる。従来、超音波システムは、プローブ内の素子数にほぼ対応するチャネル数を有していた。しかしながら、システムチャネルのコストは、二次元アレイにとってそのような対応が実際的でないものである。

【0002】

二次元超音波イメージングは、容量性膜マイクロマシン加工またはマイクロファブリケーション加工超音波トランスデューサ(capacitive membrane, micromachined, or micro fabricated ultrasound transducer; cMUT)または電気歪材料トランスデューサを利用してもよい。(cMUTのような)容量性トランスデューサと電気歪材料でできたトランスデューサとは、作動のために直流(DC)バイアス電圧の印加を利用する点が類似している。バイアス印加により変換操作の実行が可能になる。cMUTは半導体材料や他の材料から形成されてもよい。電極を有する複数の膜や他の柔構造が、音響エネルギーと

10

20

30

40

50

電気エネルギー間の変換を行う。膜のグループが様々な素子として動作する。cMUT上には、素子の多次元配列や二次元配列などの種々の配列の素子が提供される。cMUTを作動させるために、直流電圧によって膜にバイアスがかけられる。素子に交流信号が印加されると音響エネルギーが生成される。素子によって受信された音響エネルギーは交流電気信号に変換される。

【発明の概要】

【課題を解決するための手段】

【0003】

前置きとして、以下で述べる好ましい実施形態は、容量性マイクロマシン加工超音波トランスデューサ (capacitive micromachined ultrasound transducer ; cMUT) または容量性電気歪超音波トランスデューサを有する超音波イメージングシステムおよび方法を含む。等方性ボリュームイメージングは、バイアス線素子選択および様々な開口合成技術によって実現されてもよい。二次元ビーム形成は、ビームフォーマを使用して一次元に沿って集束させ、次に2回目の「オフライン」または「レトロスペクティブ(遡及的)」ビーム形成を他の方向に沿って実行することによって実行されてもよい。

10

【0004】

第1の態様では、バイアス電圧によって活性化される素子を含むトランスデューサを含むボリューム超音波イメージングシステムが提供される。バイアス発生器は、トランスデューサに結合され、素子の第1のバイアスパターンを確立するバイアス信号を発生し、かつ、素子の第2のバイアスパターンを確立するバイアス信号を発生する。トランスデューサにビームフォーマが結合され、トランスデューサは、第1のバイアスパターンに基づいて超音波データを送受信し、第2のバイアスパターンに基づいて超音波データを送受信する。第1のバイアスパターンからの超音波データと第2のバイアスパターンからの超音波データとの組み合わせに基づいて画像が作成される。

20

【0005】

第2の態様では、変換用バイアスに応答する超音波トランスデューサによる超音波イメージング方法が提供される。超音波トランスデューサからの送信は、第1のバイアスパターンおよび第2のバイアスパターンで行われる。超音波トランスデューサは、送信に応じて、第1のバイアスパターンおよび第2のバイアスパターンからデータを受け取る。第1のバイアスパターンの送受信によって得られる信号が、第2のバイアスパターンの送受信によって得られる信号と組み合わされる。

30

【0006】

第3の態様では、バイアス印加に応答する電気歪材料を使用する超音波イメージング方法が提供される。材料上の素子の第1のバイアスパターンが活性化される。この第1のバイアスパターンで第1の超音波イメージデータが送受信される。材料上の素子の第2のバイアスパターンが活性化される。この第2のバイアスパターンで第2の超音波イメージデータが送受信される。第1の超音波イメージデータと第2の超音波イメージデータとが組み合わされ、組み合わせの関数として画像が形成される。

40

【0007】

第4の態様では、バイアス電圧によって活性化される素子を含むトランスデューサを含むボリューム超音波イメージングシステムが提供される。ビームフォーマが、トランスデューサに結合され、送信機能と受信機能を実行する。トランスデューサに合成器が結合される。合成器は、送信機能と受信機能とで開口合成を実行する。第1の送受信機能が、第1のバイアスパターンに従ってバイアスをかけられた素子で実行され、第2の送受信機能が、第2のバイアスパターンに従ってバイアスをかけられた素子で実行される。

50

【0008】

本発明は、添付の特許請求の範囲によって定められ、この節内の何物も特許請求の範囲の限定として解釈されるべきでない。本発明の更に他の態様および利点は、好ましい実施形態と関連して後述され、後で独立または組み合わせで請求されてもよい。

【0009】

構成要素と図は必ずしも尺度通りではなく、むしろ本発明の原理を示す強調が行われている。更に、図では、類似の参照数字が、様々な図全体にわたって対応する部分を指す。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】超音波イメージングシステムを示す図である。

【図2】二次元アレイの説明図である。

【図3】バイアスパターンの一実施形態のグラフィック表示を示す図である。

【図4】バイアスパターンの代替実施形態のグラフィック表示を示す図である。

【図5】アボダイゼーション関数の一例のグラフィック表示を示す図である。

【図6】バイアスを用いる超音波イメージング方法の一実施形態のフローチャート図である。10

【図7】バイアスパターンの代替実施形態のグラフィック表示を示す図である。

【図8】図7のバイアスパターンのグラフィック表示を示す図である。

【図9】一群の素子からのバイアスパターンの実例を示す図である。

【図10】図9のバイアスパターンのグラフィック表示を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

「ROTATING APERTURE FOR ULTRASOUND IMAGING WITH A CAPACITIVE MEMBRANE OR ELECTRORESTRICTIVE ULTRASOUND TRANSDUCER」と題する米国特許出願番号2007/0079658号は、この参照により本明細書に援用され、cMUTトランスデューサの特性を利用し、トランスデューサへの電気接続数を $N \times N$ 個ではなく $2 \times N$ 個にできるプローブ設計について述べている。あるいは、電気接続は、 $N \times N$ 個ではなく $M \times N$ でもよく、その結果素子が $M \times N$ 個になる。この開示は、一実施形態において $M \times N$ 個の電気接続を有するcMUTプローブのような、cMUTトランスデューサと電気歪トランスデューサの使用に関する。 $N \times N$ 個のビームフォーマチャネルを必要とするのではなく、シリアル2段ビーム形成プロセスにより N 個のビームフォーマチャネルを利用することができる。このプロセスは等方性ボリュームイメージングを可能にする。20

【0012】

図1は、超音波データから画像を作成するための超音波システム100を示す。超音波システム100は、トランスデューサ102と、ビームフォーマ(beamformer)104と、検出器106と、メモリ110を備えたプロセッサ108と、表示装置112とを含む。更に他の構成要素、異なる構成要素、または少ない数の構成要素が提供されてもよい。例えば、プロセッサ108は、コンピュータ処理装置(CPU)またはグラフィック処理装置(GPU)のいずれでもよく、メモリ110は、プロセッサ108とで単一ユニットに統合されてもよい。プロセッサ108は、システム100を構成し、超音波データを処理するかまたは他の機能を実行する。代替の実施形態では、システム100は、別の装置が取得した超音波データを処理するワークステーションまたはコンピュータである。30

【0013】

トランスデューサ102は、二次元(2D)アレイなどの素子アレイを含んでもよい。素子アレイは、線形、曲線、扇形、Vector(登録商標)、または他のイメージング構成用に構成されてもよい。一実施形態では、トランスデューサ102は、直流バイアス電圧によって活性化される素子を含む電気歪材料を含んでもよい。例えば、トランスデューサ102は、容量性マイクロマシン加工超音波トランスデューサ(cMUT)でもよいし、電気歪材料による構造でもよい。詳細には、cMUTは、超音波を発生し検出するために使用される素子アレイである。cMUT装置は、一般に、膜上または膜内に配置された上部電極と、基板上または基板内に配置された下部電極と、膜と下部電極との間の空洞とからなるセルを含み、cMUTは、2つの電極を有する平行板コンデンサになる。上部電極(例えば、金属化膜)は可動式でもよく、基板上または基板内の下部電極は固定されていてもよい。電極間には誘電媒質(真空またはエアギャップ)がある。40

【0014】

10

20

30

40

50

c M U T 装置は、音響エネルギーを電気エネルギーにまたはその逆に変換するために印加直流バイアスに応答するセル群を素子内に含む。セルは、機械エネルギーを電気エネルギーにまたはその逆に変換する。c M U T は、一般に、きわめて小さく、機械的部分と電気的部分とを両方とも有するので、マイクロエレクトロニクスメカニカルシステム（「M E M S」）装置と呼ばれることがある。従来のc M U T は一般にグランド電極とホット電極を有する。ホット電極を使用して、超音波イメージング中に超音波音響波を送受信することができる。超音波の送受信と関連した様々な特性により、従来のc M U T ホット電極は、一般に、超音波を高感度で送受信するように最適化されているので、最大送信出力が損なわれる可能性がある。

【0015】

10

c M U T は、送信器モードで操作されても受信器モードで操作されてもよい。c M U T の送信器モードは超音波を発生するために使用されてもよく、受信器モードは超音波を検出してもよい。2つの電極間に静電圧が印加されると、膜はクーロン力によって基板に引き寄せられる。直流電圧の上に交流電圧が重ねられると、膜は信号に応じて動き、超音波が発生されて環境中に発射される。直流バイアス下で、超音波が膜に近づくと、膜は振動し、出力された交流電圧は装置電極から測定することができる。直流バイアスが印加されると、膜の動きによって変調された電荷が供給されて、交流信号が発生される。

【0016】

20

トランスデューサ 102 は、「ROTATING APERTURE FOR ULTRASOUND IMAGING WITH A CAPACITIVE MEMBRANE OR ELECTROSTRRICTIVE ULTRASOUND TRANSDUCER」と題する米国特許出願番号 2007/0079658 号に記載されているようなトランスデューサでよく、この出願は、この参照により本明細書に援用される。詳細には、図 2 は、トランスデューサの一実施形態を示す。設計は c M U T 型変換の特定の特徴を利用したものである。圧電トランスデューサは、交流信号の印加を使用して放射するが、c M U T は交流信号と直流バイアスとを使用する。図 2 に示した二次元アレイは、M 行および N 列の合計 M × N 個の素子を有する。M および N は、2 以上の整数であり、等しくても等しくなくてもよい。バイアス電圧は、M 個のチャネルを有するバイアス電圧発生器によって提供される。バイアス電圧を伝える M 本の線はそれぞれ、水平方向に向けられ、その行のすべての素子にバイアスをかける。これと対照的に、N 本の交流信号線はそれぞれ、垂直方向に向けられ、その列のすべての素子に信号を伝える。(m, n) 番目の素子を励起または活性化するために、バイアス電圧が m 番目のバイアス線に印加され、交流信号が n 番目の信号線に印加される。m 番目の行に沿ったすべての素子は「オン」にバイアスをかけられ、n 番目の列に沿ったすべての素子は交流信号を供給される。但し、オンにバイアスをかけられ且つ交流信号を供給される素子は (m, n) 番目の素子だけである。従って、この (m, n) 番目の素子が、放射する素子である。複数の素子が、定められた時間に放射してもよい。

30

【0017】

40

以上に述べたように、すべての素子に個別のシステムチャネルがなくてもよい。二次元アレイ内のすべての素子に個別のアクセスが提供されるが、同時アクセスはなくてもよい。従って、ビーム形成技術は、従来の超音波イメージングに使用されたものと異なってよい。一実施形態において、本明細書に示したビーム形成技術は、前述のトランスデューサーアーキテクチャを利用してよく、その結果、二次元アレイによる等方性ボリューム超音波イメージングの方が実際的である。

【0018】

50

再び図 1 を参照すると、ビームフォーマ 104 は、音響格子に沿った音響ビームを発生するためにトランスデューサ 102 に接続される。音響データは、機械的運動によってまたは電子ビームステアリングを使用して、トランスデューサを揺動させ、回転させまたは摺動させることによって収集される。ビームフォーマ 104 は、また、複数の受信イベントから 1 つの開口を合成することによって数千個の素子全体にわたる二次元ビームの形成を可能にする開口合成エンジンと呼ばれることがある。あるいは、ビーム形成の前または後に信号から開口を合成するための個別のプロセッサおよびメモリが提供される。一実施

形態では、この技術は、エレベーション開口合成（E A S）と呼ばれることがあり、一方の軸に沿って従来の超音波ビーム形成を利用し、他方の軸に沿って開口合成方法を利用する。これらの2つの操作は、両方の軸を横切る集束イメージングを提供するために連続的に実行されてもよい。開口合成の一例は、「ULTRASOUND IMAGING TRANSDUCER ARRAY FOR SYNTHETIC APERTURE」と題する米国特許出願番号2007/0167752号に記載されており、この出願の開示全体は、この参照により本明細書に援用される。

【0019】

図2は、Mチャネルバイアス電圧発生器206の個別チャネルにそれぞれ接続されたM個の行と、Nチャネル超音波システム204の個別チャネルにそれぞれ接続されたN個の列とを有する二次元（2D）アレイ202を示す。バイアス電圧発生器206は切り替え式直流電圧源である。バイアス電圧が、「オン」に切り替えられ、トランステューサに印加された際、過渡電流が流れるが、定常のバイアス状態では最小の漏れ電流が存在する。バイアス電圧発生器206が「オフ」にされると、電流は実質的に流れない。バイアス電圧発生器206が「オン」にされると、予め定められた値の直流電流が流れる。

10

【0020】

バイアス発生器206は特定パターンのバイアス電圧を発生するように構成され、超音波システム204は従来の一次元超音波アレイの従来の超音波イメージングと同じように送受信するようにトリガされる。バイアス発生器206は、電圧源に接続された高電圧FET回路網でよい。様々なトランジスタ、スイッチ、分圧器、変圧器、電圧発生器、または他の装置を使用することができる。現在公知または今後開発される任意のバイアス発生器206を使用することができる。一実施形態では、バイアス発生器206は、実質的に直流バイアスとして働くようにトランステューサ102の交流動作周波数（超音波周波数）より低い周波数の交流波形を発生する。交流信号周波数の1/3以下のバイアス電圧周波数は「実質的に直流」である。例えば、500kHzの波形が生成される。約500kHzで切り換えることによって、正弦波形を使用して、送信イベントと受信イベントとの間でバイアス電圧を徐々に増減することができる。1または2マイクロ秒にわたるようなステップ的移行により、望ましくない音響伝播の生成が回避される。移行中に生成される望ましくない音は、受信信号からフィルタ除去されてもよい。

20

【0021】

バイアス発生器206は、10~120ボルトのような、トランステューサ102が所望の感度になるように選択されたゼロバイアスと非ゼロバイアス、または負バイアスと正バイアスなどの少なくとも2つの異なるバイアスレベルを発生する。5つのバイアスレベルや7つのバイアスレベルなどのより多くのバイアスレベルを使用してもよい。異なるバイアスレベルは、送信および/または受信イベント中に使用するためのアポダイズされた開口（apodized aperture）を構成する異なる電極（図示せず）に印加される。受信時に、バイアスレベルおよび/またはフレネルバイアスパターンは、位相に基づいて動的に集束するように受信イベント中ずっと変動してもよい。

30

【0022】

超音波集束ビームが、1つのある方向に沿って送信される。得られた受信信号に、標準集束ビーム形成操作が実行される。その結果得られた超音波ビームデータストリームは後処理のために記憶される。バイアス電圧パターンが更新されてもよく、プロセスが繰り返される。一実施形態では、プロセスはL回繰り返され、各Lは一般に異なるバイアス構成と関連付けられる。完了後に、結果はL組の超音波ビームデータを含む。バイアス制御は、更に、「MICROFABRICATED ULTRASONIC TRANSDUCER ARRAY FOR 3-D IMAGING AND METHOD OF OPERATING THE SAME」と題する米国特許出願番号2005/0119575号に記載されており、この開示全体は、この参照により本明細書に援用される。

40

【0023】

ビームデータは、一次元に沿って集束された集束超音波ビームデータである。超音波システムチャネルはアレイ202の列に対応してもよい。従って、超音波システム204によって行われる集束はアレイ202の列を横切る。この次元は、図2に示したようにアジ

50

マスと呼ばれることがある。反対の次元はエレベーションと呼ばれることがある。

【0024】

図3は1組のバイアスパターンの一実施形態を示す。トランスデューサは、バイアス電圧発生器のチャネルまたは線にそれぞれ接続されたいいくつかの行を有する。図示したように、バイアス線は開口インデックス302によって識別される。開口インデックス302によって表わされた各行はバイアスオンまたはバイアスオフされる。開口インデックス302は、異なるバイアス線のそれを表し、それらのバイアス線の状態がバイアスパターンを確立する。開口インデックス302は、各素子に利用可能な開口を素子インデックス304で識別する。素子インデックス304からの各素子は、対応する行の開口インデックス302によってバイアスオンまたはバイアスオフされる。

10

【0025】

バイアス線の第1のパターンでは、開口インデックス302における第1のバイアス線を除くすべてのバイアス線がオフ（一例では約0ボルト）である。第1のバイアス線はオン（一例では100ボルトの電圧）にされる。第2のパターンでは、開口インデックス302が2である場合、第2のバイアス線以外のバイアス線がすべてオフである。第3のパターンでは、第3のバイアス線以外のバイアス線がすべてオフであり、即ち、第3のバイアス線はオンである。このプロット上の各行は、トランスデューサに印加されたバイアス電圧のパターンを表わす。プロットはL個のこののような行を示すので、トランスデューサにはL個の異なるバイアスパターンが順番に印加される。従って、超音波システムは、L個のビームデータ捕捉を実行する。一例として、素子310はバイアスオンされて示される。白い四角形はそれぞれ素子310と呼ばれ、白い四角形はバイアスオンされた素子を表わす。示したように、各行は、あるtx/rxイベントのバイアスパターンでよい。図3に示した組のバイアス構成の場合、第1のtx/rxイベント中にバイアス線1がバイアスオンされる。第2のtx/rxイベントでは、バイアス線2がバイアスオンされる。

20

【0026】

結果として、バイアスパターンからビームデータセットが作成される。図3に示したように、各バイアス状態で、単一のバイアス線がオンにされる。詳細には、 $N_{elsubap} = 1$ (306) から明らかなように1度に1個の素子がバイアスオンされる。 $N_{elsubap}$ は、各tx/rxイベントの間にオンにされたバイアス線の数のような各「サブ開口」内の素子数である。 N_{skip} は、その組のバイアス線（すなわちサブ開口）が各tx/rxイベントによりどれだけ並進するかである。図3に示したように、 $N_{elsubap} = 1$ および $N_{skip} = 1$ であり、従って任意のtx/rxイベントでは、1つのバイアス線がオンにされ、その後のtx/rxイベントでは、そのバイアスグループ（この場合は、単一のバイアス線）が、1つの増分で開口を横切って並進する。Tx/Rxバイアスパターンは、バイアスパターン間でスキップサイズ N_{skip} 以上の有効幅を有していてもよい。

30

【0027】

換言すると、1つの素子行が同時にバイアスオンされる。更に、素子行の進行は、 $N_{skip} = 1$ (308) から明らかなように次の素子行に1つずつ移動する。従って、単一行の素子が、送信サイクル中にバイアスオンされて音響パルスを放射し、受信サイクル中に活性化されて後方散乱超音波を受信する。トランスデューサ素子はイメージングに使用される音響波長と同じ寸法なので、単一行の素子は、その行の素子から伝播するときにエレベーション方向で円筒状に広がる幅広い全方向性音響場を生成する。同様に、受信感度パターンは往復感度パターンと同様に幅広くなる。

40

【0028】

図3に示したように、1組のM個のバイアスパターンの各バイアスパターンは、オンにされた単一のバイアス線を含む。従って、それぞれの関連付けられた往復感度パターンは横方向の並進以外では類似している。アレイは、エレベーション方向とアジマス方向とを有する二次元アレイである。受信データはビーム形成によってアジマス方向に集束されてもよい。往復感度パターンは一次元（エレベーションのみ）アレイの単一素子応答と類似している。特定の組のバイアスパターンは、（エレベーションのみ）アレイの各素子に連

50

続的な送受信を提供する。これは、海洋ソナーイメージング用の「サイドスキャン」ソナーに使用される送受信構成と類似している。サイドスキャンソナーでは、トランステューサは、海洋中を牽引される単一の送受信機である。牽引されるとき、このトランステューサは異なる場所から何時も送受信する。そのような各送受信サイクル中に、得られたデータストリームが記憶される。この結果、一般に開口合成として知られるビーム形成プロセスによって1組のデータストリームが解析される。このプロセスは、往復「単一素子」データを遡及的に集束して集束画像を得る。

【0029】

開口合成方法は、二次元アレイからの往復データを集束させるために使用されてもよい。このデータは、超音波システムによって実行される1回目のビーム形成によってアジマス方向に既に集束されている。2回目のビーム形成は、エレベーション方向に開口を横切って集束する。その結果、合成開口用にアジマス方向とエレベーション方向との両方に集束された画像が得られる。この画像は等方性ボリューム超音波画像である。

10

【0030】

説明したように、図3は単一バイアス線パターンに関するが、1行の素子からの放射は幅が広すぎる場合がある。この幅広さは、横方向分解能の観点からは十分であるが、S/Nの観点からは不十分である。更に、得られたデータセットは、横方向空間周波数の点でサンプリングされた所定の従来のアレイ素子サイズであり、グレーティングローブにかけられてもよい。あるいは、様々なバイアスパターンを使用して異なる結果を達成することもできる。例えば、1行の素子にバイアス「オン」するのではなく、隣接したグループまたは組の素子全体にわたってバイアスがかけられてもよく、それにより有効素子サイズが大きくなる。有効素子サイズが大きくなると、放射音響場が横方向に広がる程度が小さくなり、これによりS/Nが改善され、グレーティングローブの振幅を小さくすることがある。

20

【0031】

図4は、代替のバイアス線パターンを示す。図示したように、各バイアスパターンは、バイアスオンされた3つの隣接バイアス線のグループを含み、このグループは、パターンにより、エレベーション方向に離間された1つまたは複数の素子（行）だけ並進する。トランステューサは、バイアス電圧発生器のチャネルまたは線にそれぞれ接続されたいくつかの行を有する。図示したように、バイアス線は開口インデックス402によって識別される。開口インデックス402は、各素子の利用可能な開口を素子インデックス404で識別する。素子インデックス404からの各素子は、開口インデックス402の対応する行によってバイアスオンまたはバイアスオフされてもよい。例えば、素子410はバイアスオンされる。素子は3行の素子に対応する。図4に示したバイアス構成の場合、 $N_{elsubap} = 3$ および $N_{skip} = 1$ であり、従って各 $t \times / r \times$ イベントごとに、3つの隣接バイアス線がオンにされ、その後の $t \times / r \times$ イベントでは、そのバイアスグループが1つだけ並進する。詳細には、 $N_{elsubap} = 3$ (406) から明らかのように3つの素子行が同時にバイアスオンされる。素子の進行は、 $N_{skip} = 1$ (408) から明らかのように次の素子に1つずつ移動する。換言すると、第1の素子行と次の2つの素子行（第2の素子行および第3の素子行）とがバイアスオンされ、 $N_{skip} = 1$ (408) なので、次に第2の素子行と次の2つの素子行（第3の素子行および第4の素子行）とがバイアスオンされる。バイアスパターンは、1つの素子行を同時に増分することによって残りN個の素子を続ける。図4に示した1組のバイアス構成の場合、第1の $t \times / r \times$ イベント中に、バイアス線1, 2, 3がバイアスオンされる。第2の $t \times / r \times$ イベントでは、バイアス線2, 3, 4がバイアスオンされる。

30

【0032】

開口合成処理は、遅延加算ビーム形成プロセス (delay and sum beamformation process) として説明することもできる。 x_m が m 番目のバイアスパターンでバイアスオンされた素子グループの「質量中心」の位置を表し、 (x, z) が、画像内のある点の座標を表わす場合、データに適用される遅延は、 $t = 2 [(x_m - x)^2 + z^2]^{(1/2)} / C_0$ によって

40

50

与えられ、ここで C_0 は音速である。遅延は、ビーム合計のコヒーレント利得と横方向分解能とを改善するために信号を整合させる働きをする。遅延はすべての深度で改善されたコヒーレント集束を表わすが、深さに依存しない遅延は計算要件を少なくする（例えば、固定焦点ビーム形成）。一実施形態では、合計は、均一に重み付けされた合計でよい。あるいは、サイドロープ構造を改善するために、合計前に不均一な重み付けが信号に適用されてもよい。換言すると、ビーム形成は図 5 に関して後で述べるようなアポダイゼーションを含んでもよい。このアポダイゼーション自体は、計算を単純にするために静的でもよく、あるいはレンジ (range) と共にサイドロープ制御を改善するために変化してもよい。

【0033】

ビーム形成の他の変形が可能である。例えば、インコヒーレントビーム形成または部分コヒーレントビーム形成が利用されてもよい。インコヒーレントビーム形成において、RF ビームデータはビーム合計前に検出された振幅である。部分コヒーレントビーム形成において、ビーム形成操作は、異なるアポダイゼーションにより同じデータセットに数回適用され、また得られた 1 組の画像はインコヒーレントに組み合わされる。

【0034】

例えば、1 組のデータが取得され、図 5 に示したような 1 組のアポダイゼーション関数によって合成開口ビームフォーマで 3 回処理されてもよい。アポダイゼーション 502 は Y 軸上に示され、グループインデックス 504 は X 軸として示されている。アポダイゼーション関数は、データのダイナミックレンジを改善するためにデータの入力強度分布を変化させる。3 つのアポダイゼーション関数はそれぞれ、アレイの異なる部分からのデータを強調する。得られたアポダイズされたデータセットがビーム形成されるとき、ビーム形成が有効に制御される。

【0035】

換言すると、画像データは、トランスデューサの物理位置が、図 5 に示した 3 つのアポダイゼーション関数の結果としてその後の 3 つの取得の際に異なるかのように記録される。その結果、3 つの合成画像は類似しているが、スペックルパターンは多少異なる。次に、3 つの画像が検出プロセス後に組み合わされる（すなわち、インコヒーレントに組み合わされる）場合は、スペックル分散が減少するが、横方向分解能が犠牲になる可能性がある。部分的コヒーレントビーム形成は、遡及的空間合成でよく、従来の空間合成にある類似の利点を提供する。

【0036】

代替の実施形態が可能である。前述の実施形態では、バイアスパターンが適用され、送受信イベントが開始され完了され、次のバイアスパターンが適用される。送信サイクルと受信サイクルとの間でバイアスパターンを変更することにより、いくつかの利点が得られる。代替の実施形態では、前述のバイアスパターンが受信サイクル中に使用されてもよいが、送信サイクル中にすべてのバイアス線がオンにされる。この実施形態では、送信された音響場は平面波でよく、各送受信サイクルに同一でもよいが、受信バイアスグループはイベントによって変化する。従って、ビーム形成中に、 $t = \{ [(x_m - x)^2 + z^2]^{(1/2)} + z \} / C_0$ の異なる遅延が使用され、ここで C_0 は音速であり、得られるビーム形成は、一方向の受信のみのビーム形成として検討されてもよい。往復ビーム形成は、より優れた横方向分解能を有するが、SNR の点ではあまり強くない。更に、そのような一方向の技術は、ハダマード符号化 (Hadamard encoding) などの開口符号化方式の使用を可能にし、ハダマード符号化は更なる SNR の長所を提供し、図 7 と図 8 に関して後で説明される。

【0037】

図 6 は、前述のようなバイアスパターンを有する超音波イメージングの一実施形態のフローチャート図である。ブロック 602 で、cMUT の素子などのトランスデューサの素子が、第 1 のバイアスパターンに従ってバイアスをかけられる。バイアスパターンの例は前に図 3 と図 4 で述べられた。第 1 のバイアスパターンに基づいて、ブロック 604 のよ

10

20

30

40

50

うに、送信／受信機能が実行されて超音波画像データが収集される。この超音波画像データは、ブロック606のように、更なる処理のために記録または保存される。ブロック608では、バイアスパターンが調整され、トランスデューサからの素子が第2のバイアスパターンに従ってバイアスをかけられる。ブロック610で、送信／受信機能が実行されて、第2のバイアスパターンに基づいて超音波画像データが収集される。その第2組の超音波画像データは、ブロック612のように、更なる処理のために記録または保存される。ブロック614で、第1のバイアスパターンからの超音波画像データと第2のバイアスパターンからの超音波画像データとが、開口合成を使用して組み合わされてもよい。例えば、各組のデータが、電子焦点によってバイアスオンされた素子行内の素子アレイに沿ってビーム形成される（例えば、アジマス方向にビーム形成される）。合成方向（例えば、エレベーション）に沿って、集束は提供されない。多数の取得からのビーム形成サンプルが、合成方向に沿ってビーム形成などの合成によって組み合わされる（例えば、エレベーションと合計との所望の遅延に関連付けられた精選アジマスビーム形成サンプル）。換言すると、信号は、開口が合成されデータがビーム形成または集束されるように組み合わされる。組み合わせた超音波データは、ブロック616のように、各送信／受信イベントの合成物である超音波画像を作成するために使用される。

10

20

30

40

50

【0038】

前述の実施形態に代替の実施形態が利用可能である。上記の例では、バイアスパターンが適用され、送受信イベントが開始され完了され、次のバイアスパターンが適用される。送信サイクルと受信サイクルとの間でバイアスパターンを変更することは有益である。一実施形態では、前述のバイアスパターンが、受信サイクル中に使用されてもよいが、送信サイクル中にM個のバイアス線はすべてオンにされる。その実施形態では、送信される音響場は平面波であり、各送受信サイクルに同一でよい。受信バイアスグループはイベントにより変化する。ビーム形成中に、 $t = \{ (x_m - x)^2 + z^2 \}^{(1/2)} + z \} / C_0$ のような異なる遅延が使用されてもよい。

【0039】

得られたビーム形成は、一方向の受信専用形式のビーム形成と呼ばれることがある。このビーム形成は、前述の往復ビーム形成と比べて横方向分解能の点であまり最適でないが、S N R の点でより最適である。代替の実施形態は、送信と受信との役割を切り替えてよい。換言すると、送信サイクルの際に様々なバイアスパターンが適用され、受信の際にすべての素子がバイアスオンされる。また、得られたビーム形成は、一方向形式のビーム形成であるが、送信専用と呼ばれることがある。

【0040】

受信専用技術か送信専用技術かにより、開口全体の代わりに送信（または受信）開口の一部分だけをバイアスオンすることが望ましい場合がある。例えば、受信専用技術では、送信開口全体がバイアスオンされる。開口のバイアスオン部分の幅を小さくして送信平面波の幅を小さくし、従ってサイドローブと画像クラッタを減少させることが望ましい場合がある。得られる画像はもっと狭くてもよいが、アクティブな開口は移動されてもよい。

【0041】

ハダマード符号化などの開口符号化方式を使用することにより、更に他のS N R の利点が達成される。ハダマード符号化では、一連の幅広い符号化パターンが適用される。図3に示した1組のバイアスパターンを検討する。このバイアスパターンでは、各バイアスパターンは、バイアスオンされた1つの線以外のすべてのバイアス線からなる。ハダマード符号化バイアスパターンが図7に示したように適用され、得られたデータセットを線形代数的復号化演算で処理する場合は、得られた復号化データセットは、S N R が $20 \times 10^g (N)$ だけ大きい場合がある以外は、図3のバイアスパターンを使用して得られるデータセットと類似している。ここで、Nはバイアス線の総数である。

【0042】

ハダマードマトリクス内の点は、大きさが同じであるが符号（素子極性）が異なる非ゼロでよい。例は図8に示され、図8は、図7に示したバイアスパターンセットの第6のt

$t \times / r \times$ イベントに関連付けられたバイアスパターンを表わす。すべてのバイアス線は、非ゼロであるが、 $+v$ または $-v$ の値にバイアスをかけられることに注意されたい。ここで、 v はバイアス電圧の大きさである。図 7 のバイアスパターンは、バイアス電圧の反転によって送信信号の反転が起こる線形変換方式で実行可能である。あるいは、あまり線形形式でない変換を利用するトランスデューサでは、改良技術が使用されてもよい。この改良技術では、各 $t \times / r \times$ イベントは、同じ符号のバイアス電圧をそれぞれ利用する 2 つの別個の $t \times / r \times$ イベントに分割される。例えば、図 8 に、図 7 に示した組内の第 6 のバイアスパターンのバイアスパターンが示される。このバイアスパターンは 2 ステップで実行されてもよい。第 1 のステップで、組の正バイアス電圧部分がオンにされ、残りはバイアスされないままである。次に、システムは $t \times / r \times$ イベントを実行するように作動する。次に、バイアスパターンが切り替えられ、バイアスパターンの負電圧成分だけが印加されるが、正電圧として印加される。システムは $t \times / r \times$ イベントを実行するように作動され、2 つのイベントの結果が減算される。

【0043】

図 3 と図 4 に示したバイアスパターンでは、 N_{skip} は、グレーティングロープ性能に影響を及ぼす可能性のあるパラメータである。 N_{skip} の値が大きくなると取得が速くなるが、グレーティングロープが高くなり、従ってクラッタ性能が悪化する。図 3 と図 4 に示したように、 N_{skip} は整数値に限定されてもよい。ピッチの粗いトランスデューサの場合、1 未満の N_{skip} の値を使用することが望ましい。これは、バイアスパターンのアポダイゼーションを使用することにより可能である。バイアスパターンのアポダイゼーションを可能にするために、いくつかの異なるバイアス電圧を発生できるバイアス発生器を使用してもよい。 N_{skip} は、バイアスパターンが $t \times / r \times$ イベント間にどれだけ並進するかの基準である。

【0044】

図 9 は、一群の素子からのバイアスパターンの実例である。図 9 は、3 つの異なる非ゼロのバイアス電圧 (1/3, 2/3, 1) を利用する。音響学の観点から、バイアスパターンの位置は、バイアスオンされた素子グループの「質量中心」である。質量中心の計算から、これらのバイアスグループの質量中心が、バイアスグループ間で $N_{skip} = 1/3$ だけシフトすることが分かる。換言すると、第 1 のバイアスグループ 902 は、第 2 のバイアスグループ 904 に対して 1/3 だけシフトされた質量中心を有する。第 2 のバイアスグループ 904 は、第 3 のバイアスグループ 906 に対して 1/3 だけシフトされた質量中心を有する。第 3 のバイアスグループ 906 は、第 4 のバイアスグループ 908 に対して 1/3 だけシフトされた質量中心を有する。

【0045】

図 10 は、図 9 のバイアスパターンを表すグラフィック表示である。詳細には、図 10 は、図 9 に示された 1 組のバイアスパターンを示す。図 10 に示したようなバイアスセットから形成された画像は、グレーティングロープアーティファクトになりにくい傾向がある。

【0046】

開口合成をエレベーションで実行し、従来のビーム形成をアジマスで実行するが、開口合成を両方の次元で行ってボリューム画像を形成してもよい。標準の移動バイアスパターンまたはハダマード符号がエレベーションで適用され、固定焦点時間遅延ビーム形成が送信と受信との両方でアジマスで行われてもよく、送信焦点と受信焦点とが同じ深度に配置される。次に、電子的に並進された多数の送受信イベントの受信データが収集され記憶されてボリュームが描出される。次に、バイアスパターンの中心とエレベーション範囲平面内の意図された焦点との間の距離に基づく波形の遅延加算によって、開口がエレベーションで合成される。同時にまたはその後に、固定焦点に「仮想点光源」を仮定し、そのような仮想点とアジマス範囲平面内の意図された焦点との間の距離に基づく波形の遅延加算を実行することによって、開口がアジマスで合成される。例えば、ボリューム超音波イメージング方法は、バイアス変換に応じた多次元音響トランスデューサを含んでもよく、この

場合、第1のバイアスパターンがエレベーションで適用されて、第1の送受信イベントが行われる。送信の間、1組の固定時間遅延を有する交流信号がアジマスで適用され、受信の間、アジマスでの交流信号が、時間的に動的に変化しない別の組の固定時間遅延でビームに形成される。次に、第2のバイアスパターンがエレベーションで適用され、第2の送受信イベントが実行される。第1のイベントからの波形と第2のイベントからの波形とは、エレベーションおよびアジマス両方で開口を同時に合成するか、開口を最初にエレベーションで合成し次にアジマスで合成するかまたはその逆に合成するように「オフライン」で組み合わされる。

【0047】

説明したように、開口合成は「V3」型CMUT二次元アレイで行われてもよく、この場合、バイアスはエレベーションが固定され、時間遅延送信／受信ビーム形成はアジマスで固定される。代替の実施形態では、「SV3」型回転開口トランステューサに適用可能な他の開口合成方法を利用してもよく、この場合、送信では、時間遅延がエレベーションで適用され、バイアスパターンがアジマスで適用され、受信では、バイアスパターンがエレベーションで適用され、時間遅延がアジマスで適用される。例えば、ボリューム超音波イメージング方法は、開口回転モードで処理されるバイアス変換に応じた二次元トランステューサを含んでもよい（例えば、「ULTRASOUND IMAGING TRANSDUCER ARRAY FOR SYNTHETIC APERTURE」と題する米国特許出願番号2007/0167752号に記載されており、この開示全体はこの参照により本明細書に援用される）。エレベーションの第1と第2の送信時間遅延プロファイルを使用することによって2つの送受信イベントが取得され、次にこの2つのイベントからの受信波形が、開口合成、マッチングフィルタリングおよび／または動的送信集束をエレベーションで実施するように組み合わされる。

10

20

30

30

40

【0048】

非回転開口モードのエレベーション開口合成方法は、優れた等方性三次元分解能を有するが、理想的なSNRとは言えない。回転開口モードイメージングは、また、等方性三次元分解能を有するが、電子的切り換え時間がゼロではないので近距離場で画像化できない。これらの2つのモードの組み合わせは全場イメージングソリューションを達成する。例えば、ボリューム超音波イメージング方法は、非回転開口モードで動作するトランステューサによって取得された第1組のエレベーション開口合成データと、回転開口モードで動作するトランステューサによって取得された第2組のデータとの組み合わせからボリュームを構成する。第2組は、開口合成を含む場合も含まない場合もある。この2つの組からのデータは、コヒーレントまたはインコヒーレントに、合成されるか、ステッチされるか、インタリープされるか、左右または上下に並べて配置されてもよい。

【0049】

トランステューサ開口が、画像化または問い合わせされるボリュームのフットプリントまたは領域より小さいときは、開口合成を機械的並進およびステッチングと組み合わせてボリューム全体を覆うようにしなければならない。例えば、ボリューム超音波イメージング方法は、非回転開口モードで動作するトランステューサによって得られた第1組および第2組のエレベーション開口合成データからボリュームを構成することを含んでもよく、トランステューサは、第1組および第2組を取得する間にエレベーションまたはアジマスで機械的に並進またはシフトされる。2つの組からのデータは、コヒーレント、インコヒーレントまたは部分コヒーレントにステッチされてもよい。

40

【0050】

図1に戻ると、検出器106は、Bモード検出器、ドプラ検出器、フロー検出器、および／またはビームフォーマ信号からの強度、エネルギー、速度または他の情報を識別するための他の検出器である。超音波データは、Bモード、ドプラ速度情報、またはドプラエネルギー情報のいずれでもよい。

50

【0051】

システム100は、表示装置24と関連付けられたような、音響格子からデカルト座標格子に変換するオプションのスキャントランステューサ（図示せず）を含んでもよい。デ

ータをデカルト座標系で変換する実施形態では、スキャンコンバータがデータを音響格子からデカルト座標格子に変換する。例えば、スキャンコンバータは、複数の二次元画像または平面を音響格子からデカルト座標格子にスキャン変換する。あるいは、スキャンコンバータ、C P U、G P U、または他のプロセッサが、音響格子データの一部またはすべてを三次元デカルト格子に変換する。

【0052】

メモリ110は、データまたはビデオ情報を記憶するためにビデオランダムアクセスマモリ、ランダムアクセスマモリ、または他のメモリデバイスを含んでもよい。メモリ110は、キャッシュ、バッファ、R A M、取り外し可能媒体、ハードドライブ、または他のコンピュータ読み取り可能な記憶媒体などの、コンピュータ読み取り可能な記憶媒体またはメモリでよい。コンピュータ読み取り可能な記憶媒体には、様々なタイプの揮発性媒体および不揮発性記憶媒体がある。図面に示されまたは本明細書に記載された機能、操作またはタスクは、コンピュータ読み取り可能な記憶媒体に記憶された1つまたは複数組の命令に応じて実行される。機能、操作またはタスクは、特定のタイプの命令セット、記憶媒体、プロセッサ、または処理方式に依存せず、単独または組み合わせで動作するソフトウェア、ハードウェア、集積回路、ファームウェア、マイクロコードなどによって実行されてもよい。同様に、処理方式には、多重処理、マルチタスキング、並列処理などがある。一実施形態では、命令は、ローカルまたはリモートシステムによって読み出すために取り外し可能媒体装置に記憶される。他の実施形態では、命令は、コンピュータネットワークを介してまたは電話線で転送するためにリモート位置に記憶される。更に他の実施形態では、命令は、所定のコンピュータ、C P U、G P Uまたはシステムに記憶される。

10

20

30

【0053】

一実施形態では、メモリ110はプロセッサ108のビデオランダムアクセスマモリを構成する。代替の実施形態では、メモリ110は、プロセッサのキャッシュメモリ、システムメモリ、または他のメモリなど、プロセッサ108から分離されたものである。メモリ110は、音響格子、デカルト格子、デカルト座標格子と音響格子との両方で変換された超音波データ、またはボリュームを三次元格子で表わす超音波データを記憶する。

【0054】

一実施形態では、プロセッサ108は、グラフィックアクセラレータチップ、プロセッサ、特定用途向け集積回路、回路、またはアクセラレータカードを含むG P Uでよい。第2の実施形態では、プロセッサ108は、n V i d i a (例えは、Q u a d r o 4 9 0 0 X G L など) 、A T I (例えは、R a d e o n 9 7 0 0 など) 、またはM a t r o x (例えは、P a r h e l i a など) によって製造されたようなパーソナルコンピュータグラフィックアクセラレータカードまたは構成要素である。プロセッサ108は、三次元テクスチャマッピング用のアプリケーションプログラミングインタフェースの使用のような、ボリュームレンダリングプロセスを加速するハードウェア装置を提供する。A P I の例にはO p e n G L とD i r e c t X があるが、プロセッサ108と関係なくまたはプロセッサ108と共に他のA P I を使用することもできる。

30

【0055】

プロセッサ108および/またはメモリ110は、システム100内に、同一ハウジング内のカート上の超音波システムなどの、単一超音波システム構成要素の一部として含まれてもよい。代替実施形態では、プロセッサ108とメモリ110は、ワークステーションまたはパーソナルコンピュータ内に提供されるなど、超音波データ収集システムと別に提供される。超音波データは、コンピュータネットワークによって無線で、または可搬式記憶媒体を介してプロセッサ108に転送されてもよい。

40

【0056】

表示装置24は、三次元ボリュームまたは表現の二次元画像を表示するためのC R T、L C D、平面パネル、プラズマスクリーン、ビデオプロジェクタまたは他の装置である。表示装置24は、超音波画像の出力を表示するように構成されてもよい。

【0057】

50

本発明を様々な実施形態を参照して説明したが、本発明の範囲を逸脱することなく多くの変更および修正を行なうことができることを理解されたい。従って、前述の詳細な説明が、限定ではなく例示と見なされ、添付の特許請求の範囲が、本発明の精神および範囲を定めるように意図されたすべての等価物を含むことを理解されることを意図している。

【符号の説明】

【0058】

100 ボリューム超音波イメージングシステム

102 トランスデューサ

104 ピームフォーマ (閉口合成エンジン)

106 検出器

108 プロセッサ

110 メモリ

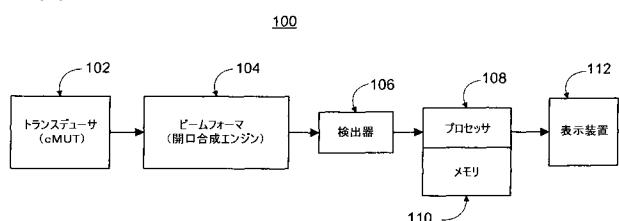
112 表示装置

10

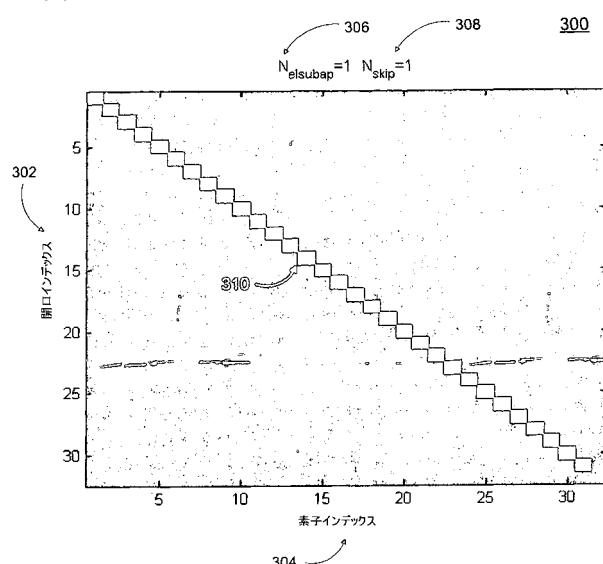
304 素子

602, 608 バイアスパターン

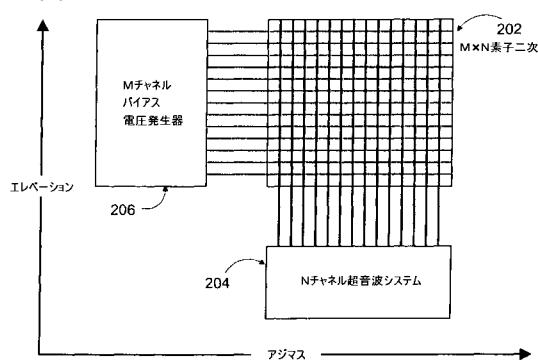
【図1】



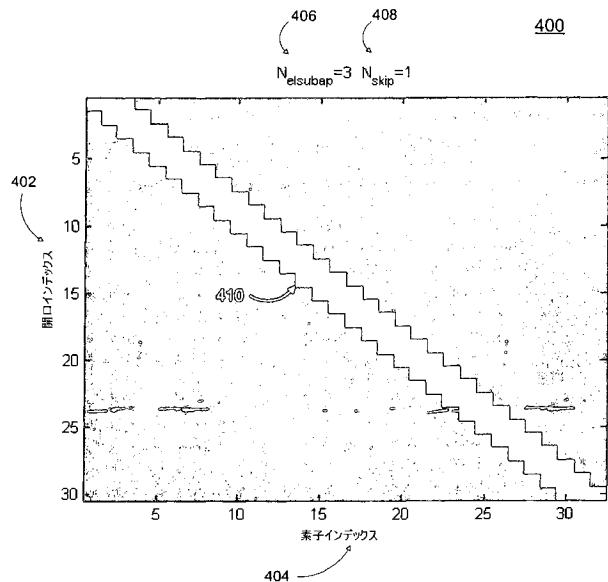
【図3】



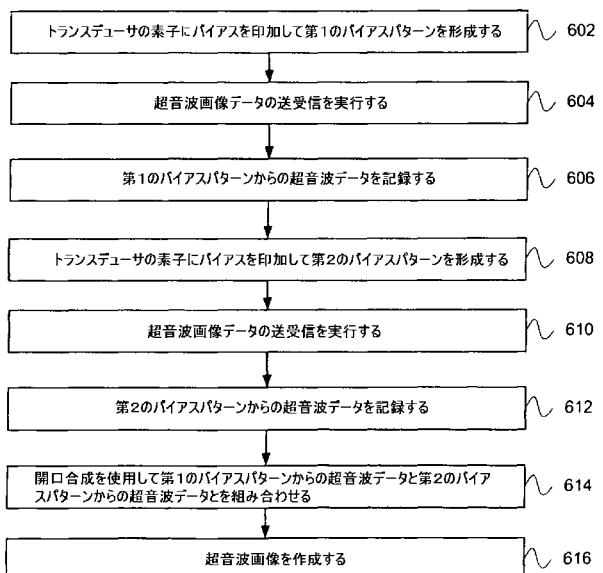
【図2】



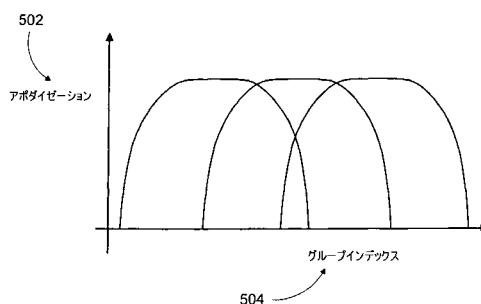
【図4】



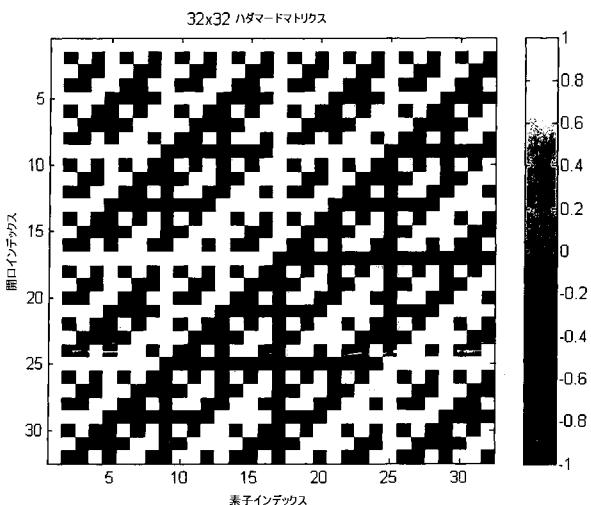
【図6】



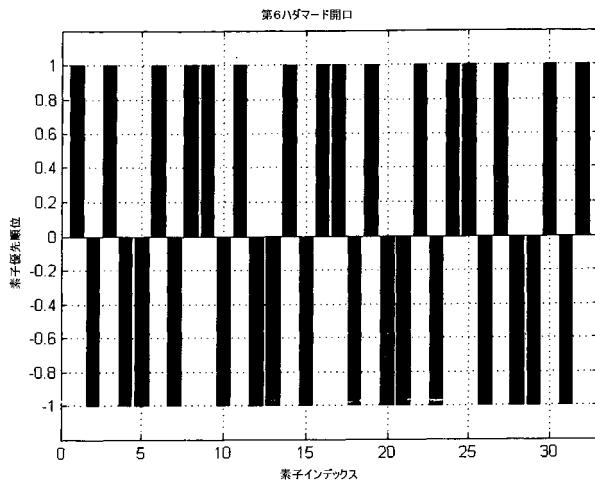
【図5】



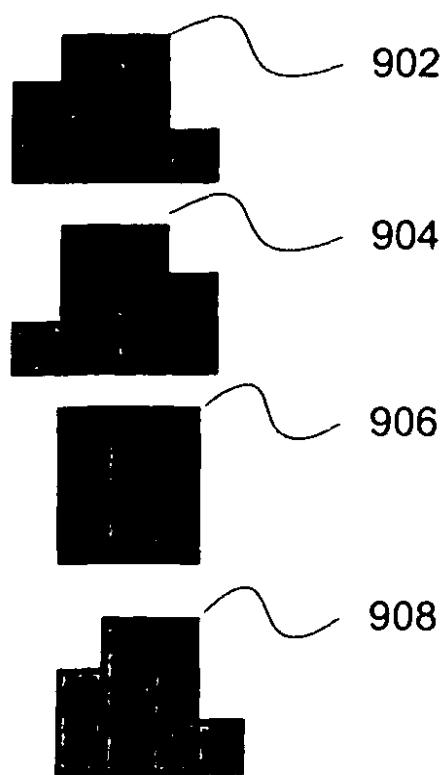
【図7】



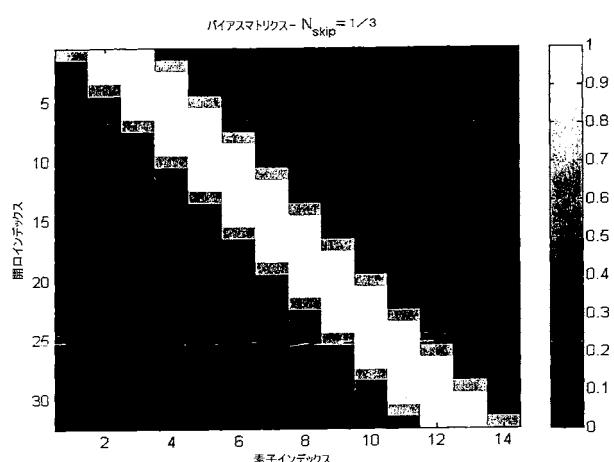
【図8】



【図 9】



【図 10】



【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No PCT/US2008/010468

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER INV. G01S15/89

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) G01S B06B
--

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practical, search terms used)
--

EPO-Internal, WPI Data, INSPEC

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT
--

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	EP 1 795 917 A (SIEMENS MEDICAL SOLUTIONS [US]) 13 June 2007 (2007-06-13) cited in the application abstract paragraphs [0023] - [0073]	1-25
X	DAFT C ET AL: "cMUTs and electronics for 2D and 3D imaging: monolithic integration, in-handle chip sets and system implications" ULTRASONICS SYMPOSIUM, 2005 IEEE ROTTERDAM, THE NETHERLANDS 18-21 SEPT. 2005, PISCATAWAY, NJ, USA, IEEE, vol. 1, 18 September 2005 (2005-09-18), pages 463-474, XP010899007 ISBN: 978-0-7803-9382-0 abstract; figures 1,2,9-12 Sections I, II, and V-VIII	1-25
		-/-

<input checked="" type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C.
--

<input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.
--

* Special categories of cited documents :

- *A* document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
- *E* earlier document but published on or after the International filing date
- *L* document which may throw doubt on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
- *O* document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
- *P* document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

- *T* later document published after the International filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
- *X* document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
- *Y* document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art.
- *A* document member of the same patent family

Date of the actual completion of the International search

8 December 2008

Date of mailing of the International search report
--

16/12/2008

Name and mailing address of the ISA/ European Patent Office, P.B. 5818 Patentlaan 2 NL - 2280 HV Rijswijk Tel: (+31-70) 340-2040, Fax: (+31-70) 340-3016
--

Authorized officer

Zaneboni, Thomas

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2008/010468

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	EP 1 768 101 A (SIEMENS MEDICAL SOLUTIONS [US]) 28 March 2007 (2007-03-28) cited in the application abstract paragraphs [0002] - [0009] paragraphs [0017] - [0067]	1,2, 5-13, 16-23
X	WAGNER P ET AL: "5G-1 Two Approaches to Electronically Scanned 3D Imaging Using cMUTs" ULTRASONICS SYMPOSIUM, 2006. IEEE, IEEE, PI, 1 October 2006 (2006-10-01), pages 685-688, XP031076389 ISBN: 978-1-4244-0201-4 abstract; figures 1,7,8 Sections I-III	1,2,5, 7-10,12, 13,17-23
A	US 2005/119575 A1 (LADABAUM IGAL [US] ET AL) 2 June 2005 (2005-06-02) cited in the application the whole document	1-25
A	FISHER R ET AL: "Reconfigurable arrays for portable ultrasound" ULTRASONICS SYMPOSIUM, 2005 IEEE ROTTERDAM, THE NETHERLANDS 18-21 SEPT. 2005, PISCATAWAY, NJ, USA, IEEE, vol. 1, 18 September 2005 (2005-09-18), pages 495-499, XP010899013 ISBN: 978-0-7803-9382-0 the whole document	1-25
A	US 6 048 315 A (CHIAO RICHARD YUNG [US] ET AL) 11 April 2000 (2000-04-11) the whole document	4
A	US 2005/243812 A1 (PHELPS ROBERT N [US]) 3 November 2005 (2005-11-03) the whole document	1-25

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No
PCT/US2008/010468

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)		Publication date
EP 1795917	A 13-06-2007	JP 2007152127 A	US 2007167752 A1	21-06-2007 19-07-2007
EP 1768101	A 28-03-2007	JP 2007089187 A	US 2007079658 A1	05-04-2007 12-04-2007
US 2005119575	A1 02-06-2005	NONE		
US 6048315	A 11-04-2000	NONE		
US 2005243812	A1 03-11-2005	NONE		

フロントページの続き

(81)指定国 AP(BW,GH,GM,KE,LS,MW,MZ,NA,SD,SL,SZ,TZ,UG,ZM,ZW),EA(AM,AZ,BY,KG,KZ,MD,RU,TJ,TM),EP(AT,BE,BG,CH,CY,CZ,DE,DK,EE,ES,FI,FR,GB,GR,HR,HU,IE,IS,IT,LT,LU,LV,MC,MT,NL,NO,PL,PT,RO,SE,SI,SK,T
R),OA(BF,BJ,CF,CG,CI,CM,GA,GN,GQ,GW,ML,MR,NE,SN,TD,TG),AE,AG,AL,AM,AO,AT,AU,AZ,BA,BB,BG,BH,BR,BW,BY,
BZ,CA,CH,CN,CO,CR,CU,CZ,DE,DK,DM,DO,DZ,EC,EE,EG,ES,FI,GB,GD,GE,GH,GM,GT,HN,HR,HU,ID,IL,IN,IS,JP,KE,K
G,KM,KN,KP,KR,KZ,LA,LC,LK,LR,LS,LT,LU,LY,MA,MD,ME,MG,MK,MN,MW,MX,MY,MZ,NA,NG,NI,NO,NZ,OM,PG,PH,PL,PT
,RO,RS,RU,SC,SD,SE,SG,SK,SL,SM,ST,SV,TJ,TM,TN,TR,TT,TZ,UA,UG,US,UZ,VC,VN,ZA,ZM,ZW

(72)発明者 プラッドレイ、チャールズ イー

アメリカ合衆国 94010 カリフォルニア、バーリングーム、オーク グローヴ アヴェニュー
- # 4 1217

(72)発明者 ダフト、クリストファー エム

アメリカ合衆国 94085 カリフォルニア、サニーヴァイル、エスカロン アヴェニュー #
404 1055

(72)発明者 ワグナー、ポール エイ

アメリカ合衆国 94070 カリフォルニア、サン カルロス、ウォールナット ストリート
544 アパートメント 5

(72)発明者 パンダ、サチ

アメリカ合衆国 94536 カリフォルニア、フレモント、ブラック マウンテン サークル
145

F ターム(参考) 4C601 BB03 EE14 GB02 GB06 GB41 GB42 HH25 HH38

专利名称(译)	体超声成像系统及超声成像方法		
公开(公告)号	JP2010540071A5	公开(公告)日	2011-09-22
申请号	JP2010526891	申请日	2008-09-08
[标]申请(专利权)人(译)	美国西门子医疗解决公司		
申请(专利权)人(译)	西门子医疗系统集团美国公司		
[标]发明人	ブラッドレイチャールズイー ダフトクリストファーエム ワグナーポールエイ パンダサチ		
发明人	ブラッドレイ、チャールズ イー ダフト、クリストファー エム ワグナー、ポール エイ パンダ、サチ		
IPC分类号	A61B8/00		
CPC分类号	G01S15/8925 G01S15/8927 G01S15/8959 G01S15/8995 G01S15/8997 G01S13/90 G01S15/89		
FI分类号	A61B8/00		
F-TERM分类号	4C601/BB03 4C601/EE14 4C601/GB02 4C601/GB06 4C601/GB41 4C601/GB42 4C601/HH25 4C601/HH38		
代理人(译)	山口岩		
优先权	11/904454 2007-09-26 US		
其他公开文献	JP2010540071A JP5641937B2		

摘要(译)

超声成像系统 (100) 利用偏置线元件选择和使用电容膜或电致伸缩超声换能器 (102) 的各种孔径合成 (614) 技术实现各向同性体积成像。通过使用沿一维聚焦的波束形成器 (104) 然后在另一方向上执行第二“离线”或“回顾性”波束成形来执行二维波束成形。